ハミングヘッズ株式会社

Humming HEADS®

AI Humming Heads

AI Humming Heads 使い方コツ集

目次

ウィンドウタイトルが都度変わる場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

同じオブジェクト名が複数ある場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

オブジェクトやウィンドウが見つかるまでプログラムを待機させる場合・・・・・・・・・・3

各アプリケーションを起動する時のコツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

デスクトップ画面や Windows のスタートメニューを使用する操作の場合・・・・・・・・・5

表示外の対象に対して、自動でスクロールし、操作する場合・・・・・・・・・・・・・・・・6

表示外の対象に対して、自動でスクロールし、操作する場合　補足・・・・・・・・・・・・7

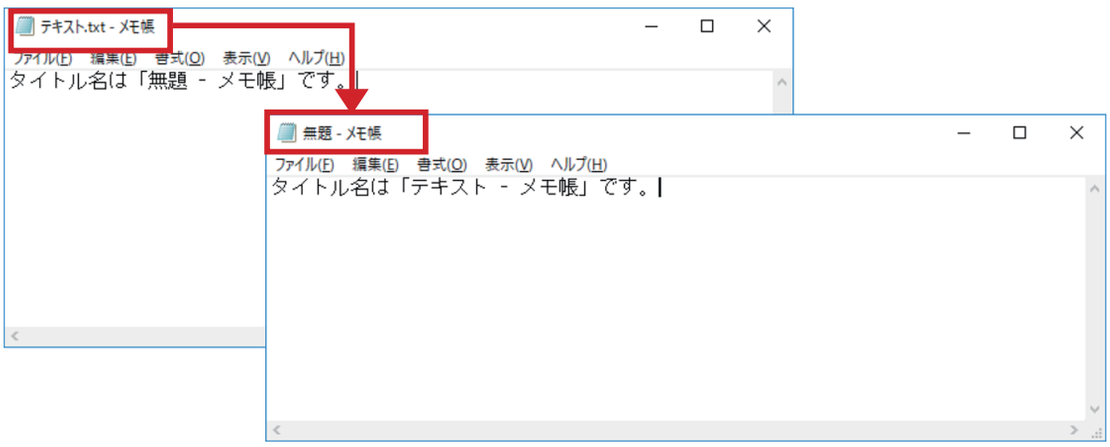
ファイル選択ダイアログを使用する場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

マウスオーバーによる画面変化がある場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

Excel 操作について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

ハミングヘッズ株式会社
Humming HEADS®

◇ウィンドウタイトルが都度変わる場合



【コマンドファイルにウィンドウタイトルを記述する際に、正規表現を使う】

例)
　parent-wnd-caption= 無題 - メモ帳
　parent-wnd-caption= テキスト - メモ帳

▼

　parent-wnd-caption=<.*> - メモ帳

※ AIHH の正規表現では、<.*> で 0 文字以上の
あらゆる文字列、という意味になるため、
上記の例では、どちらのウィンドウも対象となります。

※「wnd-caption」のタイトルが影響ある場合は、
　「wnd-caption」のパラメータに正規表現を利用しましょう

◇同じオブジェクト名が複数ある場合

対象範囲でクラス名やオブジェクトタイプ、ウィンドウタイトルなどが同一の場合

インデックス (obj-idx。オブジェクトの番号) が　1,2,3…とつきます。

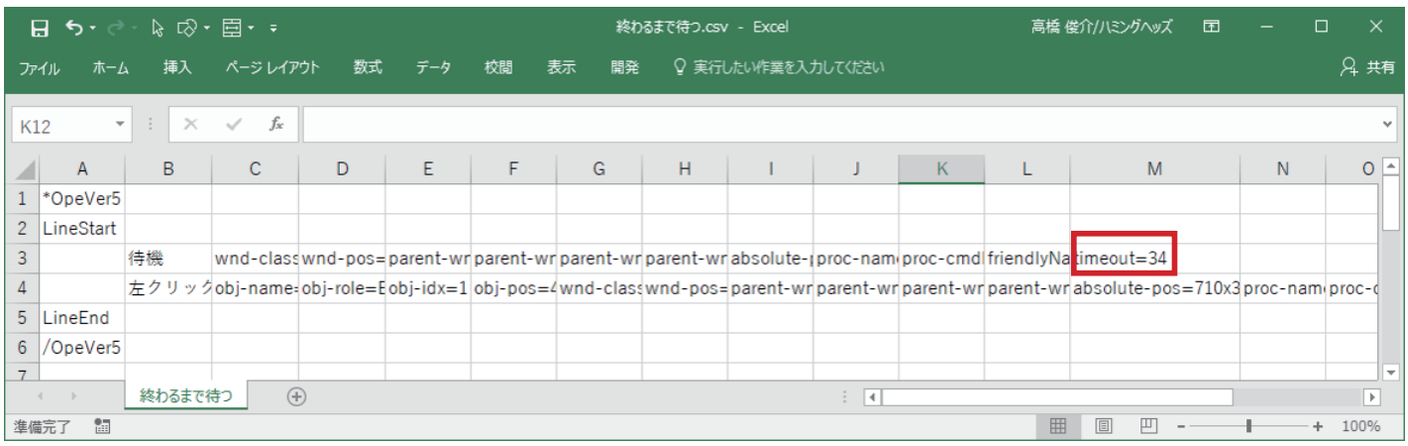
例）web ページで、「サインイン」ボタンが上部と下部にある場合の obj-idx の値

〇コマンド記述例

＜上部の「サインイン」ボタン＞
, 左クリック ,obj-name= サインイン ,obj-role=Text,obj-idx=1,obj-pos=34x13,・・・

＜下部の「サインイン」ボタン＞
, 左クリック ,obj-name= サインイン ,obj-role=Text,obj-idx=2,obj-pos=34x13,・・・

◇オブジェクトやウィンドウが見つかるまでプログラムを待機させる場合



例）timeout=34

「timeout」の値は最大待機時間となるため、上記は 34 秒待つ、ということになります。
34 秒以内に（例えば 1 秒後）に対象のコマンドが実行されれば、そのタイミング（34 秒待たず 1 秒後）で次に進みます。

これを応用し、表示まで毎回 5 分程度かかる、という業務がある場合、「timeout=600」（余裕をもって 10 分に設定）とすることで、対象を待つことが可能です。

◇各アプリケーションを起動する時のコツ

【アプリ起動コマンドを使う】 ※詳細はマニュアルをご確認ください。

〇コマンド記述例

■ URL を指定して IE を起動

, アプリ起動 ,IE,URL,

■ Excel ファイルを起動

, アプリ起動 ,Excel, 対象ファイルのフルパス ,

■フォルダを開く

, アプリ起動 , エクスプローラ , 対象フォルダのフルパス ,

【プロセス起動コマンドを使う】 ※詳細はマニュアルをご確認ください。

〇コマンド記述例

■実行ファイル（.exe）を直接起動

, プロセス起動 , C:\Program Files\Windows Media Player\wmplayer.exe, 対象ファイルのフルパス ,

■バッチファイル（.bat）を起動

, プロセス起動 ,c:\test.bat, バッチファイルへ渡す引数 ,

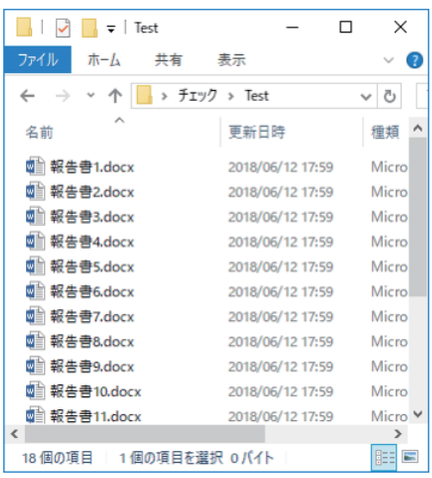
◇デスクトップ画面や Windows のスタートメニューを使用する操作の場合

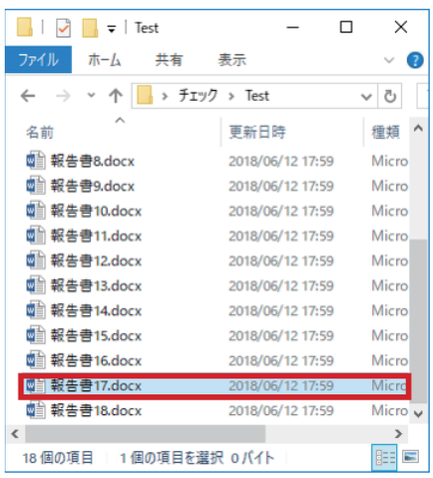
アプリ起動コマンド・プロセス起動コマンドを使用する

＜デスクトップ＞
デスクトップは、ユーザによって見た目やパス、配置が大きく変わるため、デスクトップを使用する操作の場合は「各アプリケーションを起動するときのコツ」をご参照ください。

＜ Windows のスタートメニュー＞
Windows のスタートメニューは、アップデートなどで配置や構成が変更されることもあります。
アプリケーションを起動させる場合は、スタートメニューからではなく、「各アプリケーションを起動するときのコツ」を参照いただくなど、別の方法を利用してください。

◇表示外の対象に対して、自動でスクロールし、操作する場合





一度「マウス移動」を挟む

記録時は画面右のスクロールバーを操作せず、マウスのスクロールホイールで対象まで移動し､対象物を「左クリック」してください。

より確実に動作させるために、「マウス移動」をコマンドに追加します。

○コマンド記述例

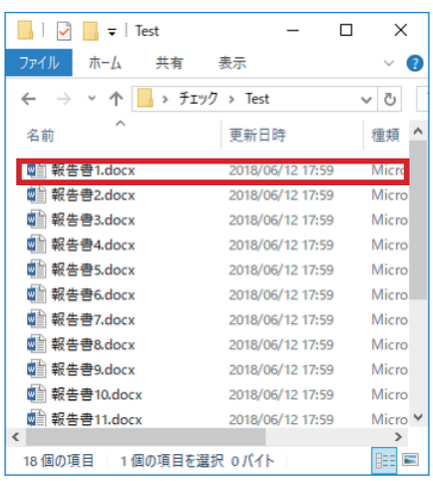
, マウス移動 ,obj-name= 報告書 17.docx,obj-role=ListItem,・・・
→追加。下の左クリックのコマンドをコピーし、「マウス移動」に変更

, 左クリック ,obj-name= 報告書 17.docx,obj-role=ListItem,・・・

◇表示外の対象に対して、自動でスクロールし、操作する場合　補足

スクロールの操作が効かない場合

アプリケーションの作りによっては、スクロールの操作が効かない場合もございます。
その場合は、例えば、以下の方法をお試しください。
※ ai-support@hummingheads.co.jp まで情報提供いただけると製品の向上に役立ちます。



①画面をクリックし、「報告書 17.docx」と入力し、対象まで移動する

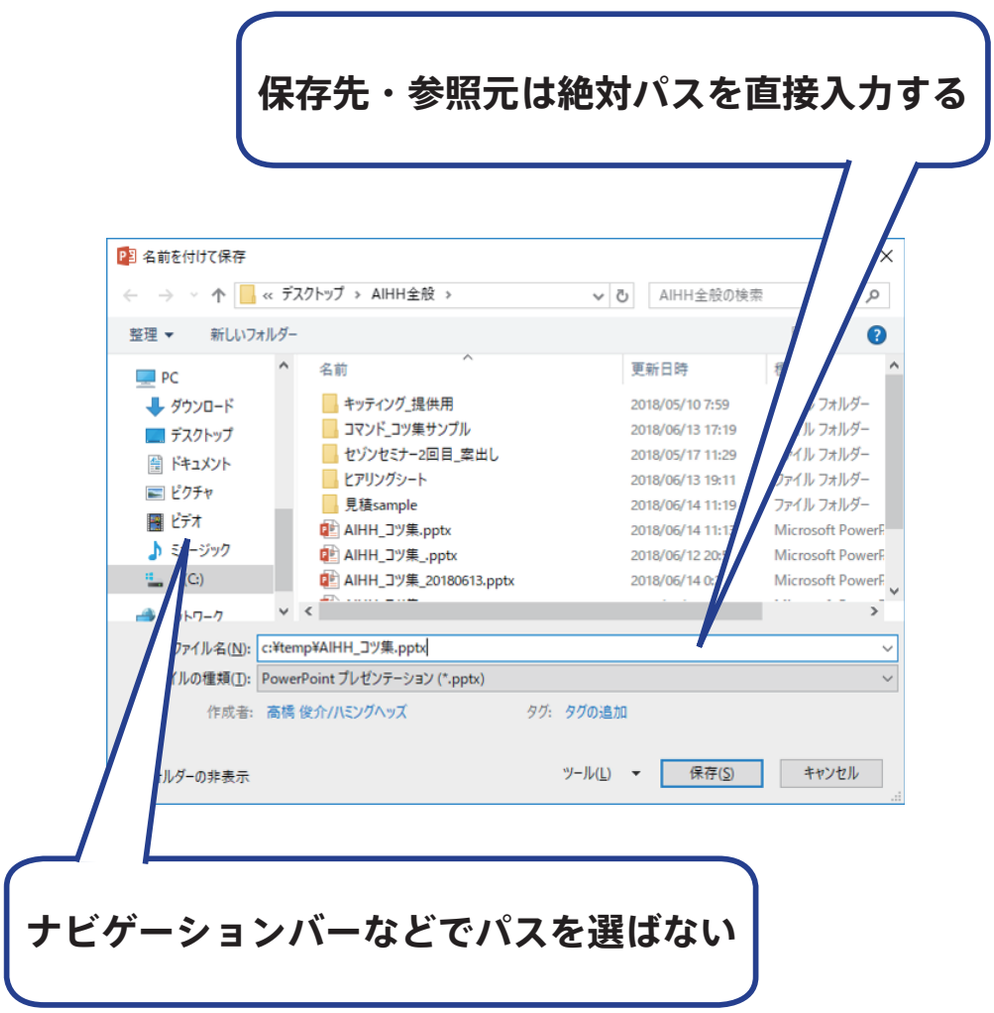
②検索ボックスがあれば、対象とするファイル名を入力し、予め対象を抽出する

◇ファイル選択ダイアログを使用する場合

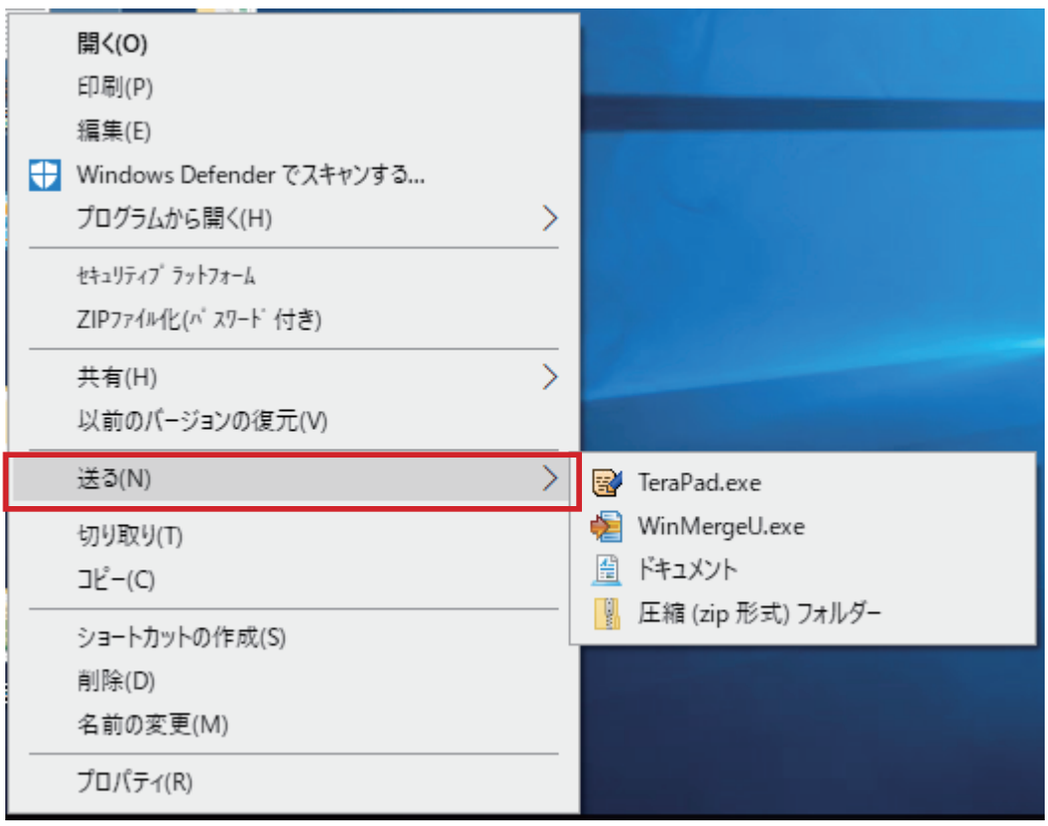
パスを直接入力する

ファイル選択ダイアログで、対象のファイルやフォルダを指定する際は、順番にフォルダをクリックして選択するのではなく、入力ボックスに直接絶対パスを入力し、指定してください。

開いているファイルの場所などによって、画面の表示が変化するため、実行が途中で止まる可能性があります。



◇マウスオーバーによる画面変化がある場合



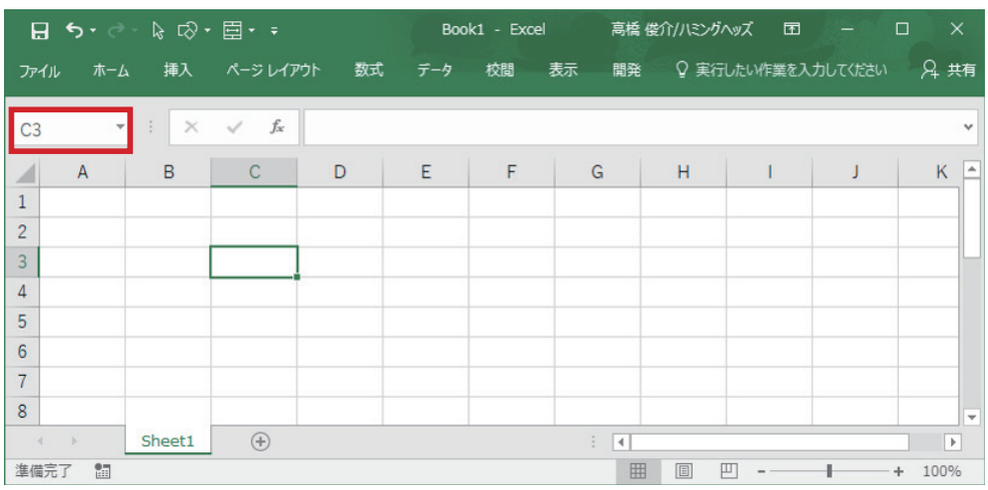
一度「マウス移動」「クリック」を挟む

マウスオーバーは「マウス移動」コマンドをご利用ください。
自動記録では記録されませんので、記録時に「左クリック」を記録していただき、記録を停止してください。
さらに、コマンド編集で「左クリック」を「マウス移動」に変更してください。

◇ Excel 操作について

■セルを指定する場合

①名前ボックスをクリックし、セル番号を記入します。



②「ctrl + f」で、対象の項目を検索し、矢印キーで対象まで移動

■表の移動、全体のデータを取得する場合

・現在のセルから選択しつつデータの右端まで移動

「ctrl + shift + 右 (矢印)」

・一番下のデータがあるセルまで移動（連続したデータの場合）

「ctrl + 下 (矢印) + 下 (矢印) + 上 (矢印) 」